

新中学校開校に向けた小学校3年担任交流会 記録要旨

○と き：令和5年7月28日（金）9時00分～10時00分

○ところ：勝山市教育会館 第5研修室

○出席者：3年担任7名（市内6校）

1. 教育長あいさつ

(1) 新中学校の開校に向けた準備について

- ・現小学校3年生が新中学校の第1回目の入学生。（4年は中2、5年は中3で編入）
- ・7年度から3中学校でいろいろなことを統一して進めなくてはならない。（校名、制服・体操服なども7年度に間に合うように進めている）
- ・9つの小学校が1つの中学校に入学するため連携や交流が大事になる。

(2) 3年担任会について

- ・南小以外学年経営を一人でやっている現状がある。
- ・横のつながりを大切にして情報共有や連携をしていく

2. 視聴の確認（画面で確認）

(3) 勝山市立中学校の再編について

① 3中学校を1校に統合

② 新中学校を勝山高校の敷地内に建設

③ 特色ある教育

④ 新しい施設・設備

- ・これまでの学校再検討の主な経緯、勝山市の出生数の推移
- ・新中学校 建設スケジュール
- ・子どもたちが生きていく時代、令和の時代の教育の主なキーワード
- ・新中学校が目指す教育、連携型中高一貫教育
- ・特色ある教育内容（探究的な学習、ライフデザインタイム、生徒主体で進める学校行事・特別活動・部活動、高校教員によるサポート授業、ICT環境の充実と効果的活用）
- ・新校舎の施設・設備等について（多目的室、メディアセンター）
- ・地下通路、部活動、スクールバス

3. 意見交換（担任7名）

担任1	・3中学校が一つになると学校行事が盛り上がるのではないかと。体育祭や文化祭が大きな規模になって体育祭はいろいろな色組ができるし合唱コンクールも盛り上がるのではないかと。勝山の中学生は受験をしなくても高校に進学できるのか。
担任2	・スクールバスは遠いところほど出発が早くなって送ってくる家が多くなるのではないかと。ジオアリーナ周辺が混雑したり自転車で通学する子もいたりして朝の交通渋滞が心配。地下通路が広いとはわかったが地下を通っている時は大丈夫かという心配がある。冬を考えると屋根のある所を通った方がいいしほぼ中高生しか利用しないとは思いますが気になる。
担任3	・友達に関して3年生は一から中学校での関係になり、4年生、5年生はある程度中学校での関係ができてから新しい人たちとの関係になる。小さい学校

	の子は精神的に不安にならないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・連携型の中高一貫は基本的には入試がある。高志中高は併設型中高一貫教育なので基本的に高志中の子は入試なしで高校に行ける。国では簡便な入試としているが連携している中高の間で進学する場合は5教科の試験はしなくてもいい。面接や他の方法で評価して入る制度はある。金津や丹生や美方は連携型で平成14、15年からスタートしていて中学校の中に連携クラスを作る。金津高に行きたいという子が芦原中と金津中に連携クラスを3年になるときにクラス替えして決める。サポート授業や高校と連携した活動は連携クラスを中心にする。勝山は敷地内に校舎を建てるとし廊下でつながるので連携クラスを作らないですべてのクラスに高校の先生が週1回ぐらいTTでサポート授業に入る。せっきく連携するので勝高に行きたいという生徒には負担の少ない入試を県教委と相談してできないかと思っている。全く入試がないわけではない、福井の学校に行っても職業系の学校に行ってもいい。 ・スクールバスについては無料だし各地域から出す。子どもの数もあるので朝2便出すことも考えていきたい。基本30分以内と決めてルートを考えていきたい。ジオアリーナに集まってくるので交通量の調査をしながらやっていきたいしジオアリーナの発着は福井方面と大野方面があるのでどのようにするかは検討できるかと思っている。安全安心を第一に考えるのは当然。 ・地下通路は防犯カメラやセンサーを付けることは当然する。関係機関と連携して小学校だったら一緒に学校までついて行ってくださる人がいる体制もあるのでそういうものも今後相談してできないかと思っている。雨の時は止水版などいろいろなことができるので配慮していきたい。中学校だと7時50分までに入りなさいというのは朝活動があったりするからで校時表やカリキュラムも抜本的に考えようと思っている。朝活動は本当に必要なのかを考えると学校に入る時間を遅くできる。 ・友達付き合いが心配なのは我々も同じでその方策の一つとしては今から他の学校と交流する機会を作りながら知り合いを増やしていく。どんな交流をするかという意見は聞かせていただきたい。交流するにしても入りにくい子も当然いる。一人ずつの特性に合わせて考えていかななくてははいけない。いずれ社会に出ていく子ども達なのでいつまでも小さいコミュニティーの中に入れていいというものでもない。世界を少しずつ広げていくことが大事。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生でも今から交流する段階でもいやだという子は出てくると思うのでどのように配慮していくかという話が出ていた。
担任4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数も減っていつているので一つの中学校になるのはやむを得ない。学年の人数が増えることで組分けも一クラスの中で何色かあるという分け方ではなく、一クラスで赤色、青色とやることでクラスの団結力がつくのかと思う。人数が増えることでできることはたくさんあると思う。中高で共有する教室があると思うが時間割の編成が大変になってくるのではないか。
担任5	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達はその学校に行ったら順応すると思っている。一学年5クラスで教員が8人から10人として全校で50人ぐらいの職員が集まる。各中学校で分担している仕事を一気に集めて統率する校長先生、教頭先生がいる。動き出しが一番大事で有能な先生が集められていると思うがそうすると小学校が手薄

	にならないか。勝山全体で教員が減っているので担っていく人をどうするといいかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教棟は音楽室、美術室、理科室、家庭科室、技術室とある。理科は中も高も時間数が多いので共用はできないので中学校用に2つの理科室を専用をお願いしていて技術は中学校にしかない。音楽や美術、家庭は2つずつある。県の持ち物なので勝手には造れないので協議をしている。生徒に負担のないことが前提で話をしている。 ・先生の数に定数法があるので多くはできない。3中学校が一つになっても3中学校の先生が全員入れるわけではない。逆に小学校にまわる人もいるかもしれないし市外から来ている人は地元に戻るかもしれない。異動の希望を尊重しながら考えていきたい。大きい学校になると教員は増えるし校務分掌は分かれていく。福井や鯖江にも大きい学校があるので工夫して進めているので参考にしながらICTも使いながら先生方の負担が増えないように仕組みを考えていきたい。人の配置は出来るだけつけてもらえるように県教委をお願いしたい。
担任6	・中学生のお子さんがある先生は中学校勤務ではなくなるのか。
事務局	・原則みたいなものはあるが、ここまで統廃合が進んでくるとそんなことは言っていない。
事務局	・その先生の異動希望にも出てくる話かと思うが、必要な人材を配置していくのは当然なのでお子さんがいてもお願いする形にはなる。
担任7	・生徒指導とかがやりにくくなる。
事務局	・できるだけ避けつつということはある。でもお願いする人は出てくることもある。
担任8	・人数が少ないのでできる活動が限られてくると日々感じる。以前希望する部活がないからスポーツクラブに行く子がいた。人数が集まると部活の幅ができて可能性が広がっていいと思う。保護者は心配という方もいれば小さいところにずっといるよりたくさんの子と関われるチャンスがあり人間関係に希望を持っているという方もいる。他校と体験したりオンラインでつながったりした。知っている子が増えて関わりが持てると安心すると感じた。そのような経験をつんでいくことが大事だと感じた。小学校の統廃合があるのか気になっている。
担任9	・市内全部の中学生が一か所に集まりみんなが同じ学年にいるのは新しい形。入試があるのはあるが基本あがっていくとなると小学校のように6年間同じ顔触れになる子もいる。入試で他から入ってくる子もいてシャッフルして新鮮さが保たれるかと思った。部活動のスペースはどうなるのか気になった。
事務局	・部活動の話は令和7年度の1年生から決まった部活で始めないと途中でなくなるとは言えない。
事務局	・小学校は長年の議論の中で市や市教委から統廃合するという事はない。地域の学校であるとかつながりが深いので地元から声があれば市教委も入って

	<p>考えるというスタンス。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今3つの中学校にある部活を勝高のグラウンド、二つの体育館、ジオアリーナと長山で高校の部活も含めて独自の活動場所で割り振れるめどは立っている。長山のアクセスは大きい階段を造って行けるようにしたいし、桜プロジェクトで長山の桜を植え替えるためにクラウドファンディングもしていて一体的に整備していく。階段上がって長山からジオアリーナへ降りてきて地下通路を通っての走るコースもできるし、ジオアリーナと学校は内履きのままの移動を考えている。文教ゾーンとしてあの一帯を中高生が勉強する場として環境を作っていきたい。 ・昨年生まれた子は117人でその前は109人、今年は4、5、6月で23人、4倍すると100人にならない。100人が勝山高校に行っても今と同じ。3中学校から勝高への進学率は50%で残りの子は職業系や私立や福井などに行っている。50%が変わらないと100人生まれても勝高に行くのは50人。地域から高校がなくなると大変なことになる。中学校を卒業したら市外へ行かないといけなくなる。中高連携をしっかりとっていくことで勝高の進学率もあげていきたい。勝高も考えていて新聞にも出たが地域未来留学という制度を入れて都会から恐竜の探究をしましょうと引っ張ってこようとしている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が何かの形でつながっていけないか。これまでの話では、全員が集まる企画は時間的にも費用的にも大変なのでタブレットが充実してきたので活用したい、どの学校とするかなどは決め決めでやらず目的によってちがってくる、段階的に経験ができるといいという意見が出ていた。プールの授業が交流の場になっていて組み方を変えるといろいろな学校の子と友達になれる。危惧する点としては交流する中で配慮を要する子に関してクラスでは約束ができていても一緒になったときに大丈夫なのかという意見もあった。3年生としてはどうか。各ブロックで小小連携や小中連携で動いている。
担任 10	<ul style="list-style-type: none"> ・教務主任の先生方が中心になっていただいて交流ができた。3年生がオンラインで交流しようと思っても授業の進み具合がちがってくるし、学習発表会の内容を交流しようとしても進路や日程が合わない。具体的な交流になると中心になっていただく方が必要になる。日程調整等各担任に言われても難しいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生の方でコンセンサスをとってもらって教務の先生や教頭先生にさせていただくという形か。
担任 11	<ul style="list-style-type: none"> ・負担感が生まれてもよくないし、簡単にやればやるほど子どもへの効果がうすい。仕組みられたものをすれば交流もできるし内容的にもいいものができる。
担任 12	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は画面に向かって交流ができるのか。

担任 13	・なかなか難しい。発表者の話を聞いているだけになる。最後に意見を言うのは一部の限られた子になる。
担任 14	・オンラインが苦手いきなり集められて話すとなると初めての子には話せない。とりあえず会って顔見知りになってからの方がいいやすい。
担任 15	・各学年でこの時には集まると行事化してしまうと負担が減るのではないか。
事務局	・1年生の先生からはバスがほしい、福祉バスが利用しやすいという意見が出た。
事務局	・福祉バスは前年度に予約しないといけない。年度に入って急には無理となるとバス代の予算を持っていると何かの時に対応はできる。要望が強ければ予算要求も考えたい。開校までにすることはいろいろある。
担任 16	・交流の内容としてはこの時期だったら野向のエゴマ収穫体験を全小の3年生は無理だから中学校区で集めてやっていくとどうか。恐竜発掘体験とか平泉寺の境内を案内してもらおうとか各校の特色のあるものをする。
事務局	・小学校が自分の学校の財産を持っている。炭焼き、エゴマ、チノクグジュウ、雪室そば、未来の語り部など。
担任 17	・中学校に集まってきたときに各校のことを自分たちでできないかと考えてみることになる。
事務局	・行事化するのなら予算化はしやすい。各中学校で探究のプロジェクトをやっていて地域のよさを勉強していることが一つの中学校になるとバラバラに行っている形か小学校の段階で他の地区のことを知るとか、つながる話だと思っている。
事務局	・オンラインは可能性があればお互いに声かけあつてできることをやっていくことでいいと思う。行事のようなことは少し考えながらいきたい。何か困っていて聞いてみたいことはないか。
担任 18	・帰りの会でスピーチをさせているがどの程度できていけば3年生としていいのかを教えてほしい。はじめ・中・おわりを意識させるようにはしている。はじめで1文、中で1文、おわりで1文になって中の部分を深めてほしいと思っている。
担任 19	・帰りの会で今日あったことを言っている。2分ぐらいの子もいれば話したい子はかなりしゃべる。制限をかけていない。後半にその日の当番をほめる。2学期になったらさらに工夫したい。
担任 20	・班ごとにテーマを決めてくじを引く。
担任 21	・何が楽しかったのかを言えるように、1分間でとにかくしゃべり続ける、具体的に言うけど聞いている人が楽しいと思える内容にしている。
担任 22	・この1週間であったことからスピーチをしている。言うことがない子は朝起きてからを話す。はじめに、次に、最後にという接続詞を使えるようにしている。最後に質問や感想はありませんかと聞く。質問が出ないことがいい場合もあると言っている。質問があるのは説明が不足していたという場合もある。はじめ、中、おわりに気を付けていきたい。
事務局	・物を持ってこれは何々ですというと言いやすい。いろいろ情報交換をしてい

	<p>くといい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これをきっかけにさせていただけるといい。リーダーは〇〇先生でよろしいか。何かをしようとしたときに窓口でお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの交流の話があったがそれを仕事にしようとしているわけではない。子どもにとって他の子とふれあえるといいという思いで顔見知りになって少しスタートするといいと思っている。交流会を年に何回かしてほしいと言うつもりはない。スピーチのことなどわからないことがあったら横のつながりで聞いてみる、そういう関係にしてほしい。地域へ出かけていってする交流行事などは我々の仕事として検討したい。子どもの発達段階に併せて少しやってみたらどうかと受けとめてもらいたい。これまでの学年ではクラスルームを作るとかC 4 th が活用できないかという話も出ていた。横のつながりを大事にして一年間お願いしたい。